

TAKAMURA

# 簞 玉



会報編集委員

委員長	金沢 俊男(16回生)	初宿 信子(15回生)	高見 晴美(17回生)
委員	関 文隆(10回生)	市川 加代子(15回生)	堀田 崇子(17回生)
	小杉 義信(11回生)	川島 己代(15回生)	足立 裕宏(17回生)
	市瀬 勝信(13回生)	水津 彰(16回生)	川口 明(17回生)
	山内 亨(14回生)	佐藤 美紗子(16回生)	須藤 充(17回生)
	桜岡 元(14回生)	谷 秀子(17回生)	永長 隆徳(17回生)
	茂木 伸太郎(14回生)	松島 美弓(17回生)	原 嘉昭(17回生)
	長谷川万里子(14回生)	矢代 文子(17回生)	野川 淑子(18回生)
	土田 善則(15回生)	氏家 多恵子(17回生)	
	倉石 義郎(15回生)		

簞会報

発行日 2007年4月23日  
 発行 簞会  
 東京府立第二高等女学校同窓会  
 東京都立竹早高等学校同窓会  
 〒112-0002  
 東京都文京区小石川4-2-1  
 東京都立竹早高等学校内  
<http://takamurakai.web.infoseek.co.jp>  
 編集 簞会 会報編集委員会  
 印刷 望月印刷株式会社  
 埼玉県さいたま市中央区円阿弥5-8-36



昭和30年代



昭和50年代



現在

特集 我が学び舎と制服の移り変わり…………… 2~5

●講演会・講師紹介…………… 1	●いいぞ!!同期会…………… 16
●簞会会長・校長挨拶…………… 6	●簞情報館…………… 17
●なつかしの先生…………… 7	●清里高原 竹早山荘から…………… 18
●思い出あれこれ…………… 8-9	●平成18年度総会報告…………… 19
●学校の活動報告…………… 10-11	●理事会報告…………… 20
●関西・湘南簞会だより…………… 12-13	●お知らせ・訃報・編集後記…………… 21
●竹早工コー…………… 14-15	

同じ時代を共に生きた、かけがえのない絆。  
あの頃の笑顔に、戻れる場所があります。

## 平成19年度 篁会総会のご案内

日時  
2007年6月3日(日)

受付開始 11:00  
総会 11:30~12:00  
講演会 12:10~12:50  
懇親会 13:00~15:00

会場  
ザ・プリンスパークタワー東京  
(2005年東京タワー横に新規オープン)  
〒105-8563 東京都港区芝公園4-8-1  
TEL (03) 5400-1111

総会・講演会・懇親会  
地下2階『コンベンションホール』にて

会費  
8,000円  
(平成16~18年卒は2,000円/平成19年卒は無料)

- ご出席の方は、同封の葉書で5月14日までにお申し込みください。
- 会費は、5月21日までに同封の郵便局振込用紙又は、下記銀行口座に振込にてお支払いください。
- 尚、銀行振込の場合には、必ず振込人名の後に、〇〇回生〇組(記入例: 17-E)を記入願います。(振込料はご負担願います)

三井住友銀行 池袋支店  
普通預金 No.2949524  
三井住友銀行 池袋支店  
普通預金 No.2949524  
三井住友銀行 池袋支店  
普通預金 No.2949524

◎万一出席取消の場合は、着席形式なので、必ず下記担当者(原 嘉昭)迄連絡下さい。

今回幹事 次回幹事  
高校17回生(昭和40年卒業) 高校18回生(昭和41年卒業)  
高校28回生(昭和51年卒業) 高校29回生(昭和52年卒業)  
高校38回生(昭和61年卒業) 高校39回生(昭和62年卒業)  
高校58回生(平成18年卒業) 高校59回生(平成19年卒業)

懇親会は、同期会・クラス会・クラブOB会の場としても、ご活用いただけます。  
下記へご連絡ください。お席を準備いたします。  
原 嘉昭 (株)オフィス・サンシャイン  
TEL 03-3988-9321  
月~金、9時~17時



交通のご案内  
・JR.東京モノレール「浜松町」駅から徒歩12分  
・都営大江戸線「赤羽橋」駅(赤羽橋口)から徒歩2分  
・都営三田線「芝公園」駅から徒歩3分  
・都営大江戸線、浅草線「大門」駅(A6)から徒歩9分  
・お車では首都高速都心環状線「芝公園ランプ」が便利です。

## 総会・講演会講師紹介



### 「銀幕のスター達と私の人生」

戸田 奈津子さん

映画字幕翻訳者

今回、縁が縁を結んで素晴らしい素敵な方を講演者として、お迎えすることができました。映画に興味のある方なら誰でもご存知の……映画字幕翻訳者の戸田奈津子さんです。どんな秘話がとびだすか? 今から講演がとても楽しみです。以下、簡単に「プロフィール」「主なる作品」「著書」を紹介させていただきます。

### プロフィール

Profile

東京都出身。津田塾大学英文科卒。

1992年、第一回淀川長治賞受賞。

1995年、ゴールデングローリー賞受賞。

「好きな映画と英語を生かせる職業、字幕づくりを志すが門は狭く、短期間のOL生活や、フリーの翻訳種々をしながらチャンス待つ。その間、故清水俊二氏に字幕づくりの手ほどきを受け、1970年によく『野性の少年』『小さな約束』などの字幕を担当。さらに10年近い下積みを経て、1980年の話題作『地獄の黙示録』で本格的なプロとなり、以来、1000本以上の作品を手がけている」  
「来日する映画人の通訳も依頼され、長年の友人も多い」

映画会社のアルバイトをしていたところ、当時宣伝部長をしていた水野晴郎氏から海外映画人の通訳を要請され、数々の俳優、監督の通訳を担当。



### 主なる作品

- 地獄の黙示録
- インディ・ジョーンズ
- E.T.
- フォレスト・ガンブ
- タイタニック
- ハリー・ポッター
- ラスト・サムライ
- スター・ウォーズ
- ダ・ヴィンチ・コード
- 硫黄島からの手紙
- パイレーツ・オブ・カリビアン
- ミリオンダラー・ベイビー 他多数

### 著書

- 『字幕の中に人生』 白水社1997年
- 『男と女のスリリング~字幕スーパーで英会話レッスン』 集英社1994年
- 『男と女のスリリング~映画で覚える恋愛英会話』 集英社1999年
- 『スターと私の映会話』 集英社2003年
- 『スクリーンの向こう側』 wowow.共同通信社

### 戸田奈津子さんと竹早高校とのご縁は?

私は幼稚園から高校まで、お茶の水の付属でしたので、竹早の方々とは毎日都電16番(!)で乗り合わせたご縁があります。

# 我が学び舎と制服の移り変わり

今回は、創立以来の校地・校舎の変遷と女子学生の制服（特にセーラー服）の変遷の歴史を、当時の卒業生の思い出話を交えて特集しました。— 高校17回生編集による —

## 女子師範と共用の時代 学校創立～昭和20年まで

### 校舎の変遷

明治33年に、旧東京府師範学校時代からの木造2階建て校舎を使用してスタートしました。

大正4～6年に、主要校舎の大改築。木造2階建てで立派な車寄せや講堂を持つ本館が建てられ校内も整備されました。

昭和7～10年に3階建て鉄筋コンクリート校舎完成（昭和45年独立新校舎の完成まで使用）。新校舎には時計塔が新しいシンボルとなり、モダンな劇場のような講堂、階段教室の物理教室、新装なった体育館と、昭和初期のしゃれた建築様式の建物でした。校庭も広くなり、運動会も開催可能となりました。

昭和18年には女子師範は官立（国立）へ移行し、それに伴って校舎・校地は国のものとなりました。（この後25年以上校舎問題に苦しむことになる）



大正時代の木造校舎。（大正5年3月卒業アルバム）

### 制服の変遷

明治期は、袴（はかま）に靴を履くというスタイルで、姿勢を正し、さっそうと歩く第二高女生が町の評判になったそうです。

大正期は、まだ大半の生徒が和服でしたが、大正末からは時代を反映して、和服以外にモダンなスーツやセーラー服が登場し、また、旅行などでは帽子をかぶることが流行りました。

昭和に入ると服装を統一する機運が高まり、昭和4年、セーラー服が制服として制定されました。

昭和16年には全国一律の女学生標準制服（ヘチマ型の襟）が制定されましたが、第二高女では、約3分の2の生徒が伝統的なセーラー服を着用していたそうです。

この後、戦時色が濃くなるにつれモンペの着用が広がり、昭和19年頃には学校生活の場にも浸透していきました。



明治期の服装。  
（明治45年卒業時）



大正期の服装。和服が大半であった  
（大正15年3月卒業アルバム）



昭和初期のセーラー服。昭和4年セーラー服が制服として制定される（昭和14年3月卒業アルバム）

## 学芸大付属中と共用の時代 昭和20年～昭和44年

### 校地・校舎の変遷

第二高女は戦後の学制改革に伴い、都立の新制高等学校となりましたが、校舎・校庭、その他いっさいの施設・設備は相変わらず師範学校（東京学芸大学に改組）と、学芸大学が小金井キャンパスに統合された後は同付属中学と共用していたために、極めて狭く不便を強いられました。

そこで、自前の校地と校舎を持つことが悲願となり、長く苦勞の多い交渉の末、昭和43年9月に校地の分割引渡しがなされ、昭和45年に独立新校舎が完成しました。



昭和39年頃の校舎全景。（昭和40年3月卒業アルバム）

### ～校舎の思い出～（昭和40年卒・17回生女子）

45年も前になりますが、高校受験の時、初めて竹早高校を訪れました。暗く古いイメージの中、自分の合格を確認しました。ヒマラヤ杉はその日から卒業まで私を見守ってくれました。その大きな杉の木の右側に図書室、奥に職員室、ちょっと背の高いロッカーが黒光りした木の床の廊下に立ち並び、それらは1年に1度、消毒の為にDDTの洗礼を受けました。物理教室（階段教室）は、黒板を棒で叩きながら熱弁を奮う斎藤先生の白衣姿と共に懐かしく思い出されます。また、当時教室不足のために屋上に2部屋のプレハブ教室があり、「天国」と呼ばれていました。職員室から最も遠いので先生の到着が遅く、また目も届きにくかった為か自由でヤンチャな気風がありました。階段の脇の教室も秘密めいていて、早弁などちょっとしたワルサをド

キドキしながら楽しんだものです。

### ～校舎の思い出～（昭和40年卒・17回生女子）

当時は1階と2階の半分が竹早、2階の半分と3階が付属中学であったように思います。制服も学校も違う中学生と高校生が廊下ですれ違うなど、今考えると不思議な光景ですが、その当時はなんとも思わず、ごく当たり前のことでした。ただ、校庭も共用でしたので、「お昼休みに遊ぶ場所をとられてしまう」と言って早々に昼食をきりあげ外へ飛び出していく人もいました。

今の校舎は冷暖房完備ですが、当時は夏は窓を開け放しており、すぐ外の都電や車の音が実にうるさかったような気がします。冬の暖房はダルマストーブで石炭（コークス）をがらがら燃やしていました。上には水を張った洗面器様の容器が置かれて蒸気を発生させていました。そのお湯を利用してゆで玉子をつくっている人もいました。また、ピューピュー北風の吹く日などはこのヌクヌクがたまらなく、体育をさぼってストーブの周りで3～4人でおしゃべりしているのを見つけ、皆体育の成績が下がったことを記憶しています。教室の隅には温飯器というロッカーのような戸棚様のものがあり、一番下に火種を置き、上の棚にお弁当箱を置いておくとお昼まで温かかったものです。

### 制服の変遷

#### セーラー服の復活

戦中の女学生標準制服（ヘチマ襟）は定着せず、終戦によって伝統的な第二高女のセーラー服が復活しました。

#### 竹の子結び全盛

戦前はセーラー服のネクタイは普通に結んでその先端を長く垂らしていましたが、戦後になってなぜか結び目から出る先端の長さが短くなっていきました。

昭和30年前後には先端を結び目の中にすっぽり入れてしまう「竹の子結び」が広く見られるようになりました。この結び方は30年代から40年代前半頃までが全盛期で、竹早の象徴でもありました。



「竹の子結び」全盛の頃。(昭和40年3月卒業アルバム)

～制服の思い出～ (昭和40年卒・17回生女子)

他には類をみないセーラー服と、服と共布の長方形の布で器用に結ぶネクタイは竹早生としての誇りそのものでした。男子は若竹が浮き彫りになった黒のボタンの詰襟学生服を颯爽と着ていました。女子はそれぞれ制服の着こなしに工夫を凝らし、ネクタイもいろいろ研究された「竹の子結び」を誇ったものです。スカートの丈も規定ギリギリまで短くして、スタイルと可愛らしさを競い合ったのも微笑ましく、甘酸っぱい思い出です。

～制服の思い出～ (昭和40年卒・17回生女子)

女子の冬の制服はセーラー服の下は上下つながっているジャンパースカートでしたが、夏は白地のセーラー服にウェストまでのスカートでした。おしゃれの出来るのはベルトぐらいで、校庭でラジオ体操をしたりするとチラチラ見えてしまい、「赤いベルトなんかして来るんじゃない!」と先生からお叱りを受ける人もいました。

独立校舎の時代 昭和45年～現在

校地・校舎の変遷

独立新校舎の完成 — 高校紛争のさなかに —

昭和43年の校地の分割引渡しにより竹早高校が取得した校地は、時計塔・講堂を含む本館正面玄関周辺の敷地と、附属中学や養護学校などの教室棟があった東角地を合わせた約9,000㎡の土地でした。この敷地に、昭和45年、鉄筋5階建ての独立新校舎が



完成した独立新校舎。学芸大付属中と正門も分けた (昭和53年3月卒業アルバム)

完成しました。

新校舎は現在の体育棟の位置にあり、その南側(現在の校舎棟の位置)には体育館が作られました。なお、正門もかつての位置とほぼ同じ場所にできましたが、附属中学の門とは完全に分離され、正門周辺には校名にちなんで「竹」が植えられました。

～校舎の思い出～ (昭和62年卒・39回生女子)

私達の時は、正門に入って正面が本館、右手に部室、その奥に体育館がありました。体育館の1階は柔剣道などの道場でした。グラウンドはものすごく狭く、プールもありません。体育の授業で校庭を使用した記憶がありません、ほとんど体育館での授業でした。

校舎全面改築 — さらに新校舎へ —

校舎北側にあった東京学芸大学の旧女子寮「若竹寮」の跡地を取得したのを機会に校舎の全面改築が決定し、平成5年に全館冷暖房の校舎棟が完成しました。さらに8年には地下式のアリーナ(体育館)と音楽・美術の芸術教室を併せ持つ体育・芸術棟も完成し、現在に至っています。ただし、種々の問題から十分な広さの校庭の確保ができなくなり、人工芝の屋上グラウンドとなりました。

～校舎の思い出～ (平成11年卒・51回生女子)

私達は現在の新校舎になってから入学しました。学校のパンフレットにあった「冷暖房完備」という言葉に惹かれたという友達もいましたが、使用期間が決まっていたので、いつも快適とは言えませんでした。グラウンドは体育芸術棟の屋上にあり、狭い事と人工芝の為、体育祭は近くの小石川グラウンドを借りて行いました。縦割りのクラス対抗戦、お揃いのクラスTシャツを作成しての一大イベントでした。

制服の変遷

制服から標準服へ

昭和44年の高校紛争の結果、強制力を持つ制服が廃止となり、着用を本人の意思に任せる標準服(デザインは従来の制服とほとんどかわらない)となりました。以後、セーラー服以外の服装が少しずつ増加していきましたが、それでも昭和50年代前半まではセーラー服着用者がほとんどでした。

昭和55年の海外帰国生徒学級の開設以降、帰国生徒の影響からか、または時代の流れの反映からか、次第に自由服(私服)着用が増えることとなりましたが、現在も入学式や卒業式などはもちろん、普段の学校生活でも標準服を愛用する生徒は意外に多いそうです。



(平成6年3月卒業アルバム)



(平成12年3月卒業アルバム)

竹の子結びの衰退

昭和55年頃からは竹の子結びをする生徒の数は減少していき、昭和60年頃には学校全体で約10名程度が竹の子結びをしているにすぎず、圧倒的多数が赤・青・白など色とりどりの薄地のスカーフになってしまいました。その傾向は、近年でも変わっていないそうです。

～標準服の思い出～ (昭和51年卒・28回生女子)

私達の年代は入学当時から標準服という名称で、私服並に自由でした。でも私は真夏を除いてほとんど標準服を着ていました。30年後、娘の中学進学を考えた時、どうしてもセーラー服の学校に通わせたくてセーラー服着用の伝統校を選びました。当時は制服に対して重し、スカート丈は長いし、白線はすぐ汚れるし、なんて文句ばかりを言っていました、あの時代にしか着る事の出来ない貴重な経験でした。今、娘も同じ文句を言っているのをニヤニヤと楽しんでいます。「お母さんもそうだったのよ」などと話しながら、共通の体験を大切にしていきたいと改めて思っています。

～標準服の思い出～ (昭和62年卒・39回生女子)

女子はほとんどの生徒がセーラー服を着用していました。当時は映画やテレビの影響から制服ブームで、セーラー服への憧れもあり、スカートの丈を詰めて可愛く着こなすのが流行っていました。竹の子結びはごくごく少数派で、ほとんどの生徒がスカーフ(白・青・赤)を自由に結んでいました。

～標準服の思い出～ (平成11年卒・51回生女子)

私達の時も標準服としてセーラー服と詰襟学生服がありました。私服での通学が可能だったのですが、当時、特に女子は制服のような私服(ブラウスにチェックのスカート、カーディガン)を着ている生徒が多かったと思います。

— 特集の最後は51回生(放送部)の次の言葉で締めくりたいと思います。

『当時を思い出すと校則の無い自由な校風と自主自立の精神は、私達の成長に大きな役割を果たしていたのだと思います。』

参考資料

創立百周年記念誌「竹早の百年」 「たずさえて友と=写真で綴る竹早の百年」



あたりまえ

磯貝 恵三

高校7回生(昭和30年卒)

理事会と各委員会が全員参加体制で臨むことを約束して2年目、特に、母校の簗会への理解を深めてもらうための施策と実行に取り組んできました。

新たに簗会賞をもうけ、春の体育祭にはトロフィーを、秋の文化祭には盾を贈呈しました。また、文化祭では高校の歴史を映像とパネルで紹介し、あわせて茶菓の接待をする「憩いのお休み処」を開設、300人をこえる来場者を楽しんでいただきました。ご来場の皆様と、そろいのエプロン姿で接客した理事の方がたにあらため



益々の  
発展を目指して

桑木 健

竹早高校校長

簗会の皆様には日頃より母校の教育に関しご理解ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。また、18年度の竹早祭には、簗会からも展示部門への参加をいただき、本校の歴史を含め、竹早祭にお見えになった方々へ非常に良い情報提供となり、広報活動の充実につながりました。ありがとうございました。

平成18年度は、いろいろな面で高校教育に関心が集まりました。教育課程の管理をめぐり、必修科目の世界史の学習状況から

て感謝申し上げます。

昨今の教育再生論議ですが、マクロな視点での教育環境整備を置き去りにして、やたらと法制化を急ぐ国の姿勢には首をかしげます。人間成長の糧となる、もっと根源的な自然律を(おとなにも)学ばせることが大切なのは、と考えるからです。かつてルース・ベネディクトは『菊と刀』の中で日本人の行動規範は「恥」の意識にあると見抜きました。恥ずかしいことはしない、させないがひと昔前の「あたりまえ」でしたが、この著作が発表されて60年を経たいまはどうでしょう。挨拶や気配り、ひとの痛みを分かちあうなど、自然に培ったはずの「あたりまえルール」が急速に失われています。「情けは人のためならず」のいま風解釈と同様に。

義務教育だから学校給食は出されてあたりまえ、だから払えるけれど払わないのが当然という身勝手な親が増えているようです。その子どもたちの将来が心配です。

さて、簗会の財政ですが皆様の支援が頼りです。会員は会費を納めるのがあたりまえと言えない辛さをご理解いただき、伏してご協力のほど、お願い申し上げます。会員各位のご健勝を祈ります。

始まり、政経と倫理の2科目の履修、理科総合や総合的な学習の時間の適正な実施など、話題にのぼりました。本校においては、地歴では、世界史Bを一、二年生で計4単位、三年生で日本史Aを学んでいます。公民では、現代社会を一年で学び必要な要件は満たしていますが、三年生で政経も学んでいます。そのほかの面でも、堅実な学習を行っております。

在校生は、自主自律の精神のもと、勉強に部活動の学校行事にと若い力を全開にし、活き活きと学校生活を送っています。行事などで生徒の示す力に感心させられておりますが、そうした力を学習面でも十分発揮し、生徒が希望する進路を実現していき、その一つ一つの積み重ねが結果として、全体としての進学実績となって現れてくることを目指しています。生徒一人ひとりの着実な成長を実現することが、学校の伝統を継承し発展させていくことにつながると考えます。

これからも母校の発展のため、会員の方々のお力をお寄せいただくとともに、温かく見守っていただくことをお願い致します。

(桑木校長は平成19年4月より都立練馬工業高校で活躍されています。)

なつかしの先生



「竹早回顧」

濱 和廣 先生

校長(昭和62~平成元年度在職)

物理科(昭和46~昭和52年度在職)

物理教師として6年半、校長として3年間在職した竹早高校は、私の教職人生において「心のふる里」と言っても過言ではない。それほど竹早は、私にとっては生徒にも教師にも心に残る思い出が沢山こめられている存在であったことを回顧している。

教師としては、敬遠されがちな物理という教科の指導を如何に進めるか、学習意欲旺盛な竹早生に物理離れをさせないように「わかる授業」をモットーに指導内容を精選した自作のプリント学習を取り入れ、竹早紛争直後でブレーキのかかっていた放課後の補習授業(大学受験)も敢えて行い、できるだけ生徒との心の交流に努めた。夏休み中の清里竹早寮での勉強合宿の思い出も忘れ難い。

昭和52年秋、竹早を転出し他校の教頭・校長を歴任して公立学校最後の勤務先として大好きな竹早に校長として着任したときのよろこびと感激は筆舌に尽くせないものがあつた。

竹早を去って17年経ったいま、ともしれば忘却の彼方に消え去られそうになる竹早を今まで以上身近に意識させられる出来事があつた。それは、最愛の孫の幼い生命が難しい医療によらなくては救われないという事態に遭遇したとき、切羽つまった危機を救ってくれたのは、医学界で活躍している数名の教え子の医師グループであつた。「先生あまり気を遣わないでください、恩返しのためです」と異口同音に発せられた言葉の中に当世では考えられない温かい師弟の情愛を感じとり、竹早で出会って本当に良かったと教師冥利に尽きる思いを新たにしたのはつい最近のことであつた。

卒業してからも母校を愛し、誇りに思っている竹早生の心の拠り所としての「簗会」の充実発展を祈って拙文を閉じさせてもらう。



「心に残る私の授業」

塩澤 利雄 先生

英語科(昭和38~昭和41年度在職)

数年前にある雑誌から「心に残る私の授業」というテーマで原稿を依頼された。その時、40年も前のことなのに竹早高の授業が頭に浮かび、書いた。私は学校群が実施された昭和42年に三田高へ転勤し、それから群馬大、宇都宮大などを経て、東京家政大で定年まで教壇に立ったが、三田高以後は教育環境もどんどん変わってしまったので、よい時代の竹早高の授業が懐かしく思い出されたのであろう。

私が竹早高に在籍していたのは昭和38年からの4年間で日本の高度経済成長期の真っ只中で、新幹線がスタートし、東京でオリンピックが開催されたが、歴史がある学校にはまだ戦前からの伝統の名残があり、主体的な教育が行なわれていた。

竹早高の生徒はよく勉強し、よくできた。まだ女子の大学への進学率が低い時代であったが、女子でもほとんどが大学、それも4年制への進学を希望した。昭和42年5月10日『竹早新聞』で合格者数をみると、早大25名、慶大18名とあるが、お茶の水女子大20名、東京女子大23名、日本女子大41名と女子大が多い特色がある。そこで、競争相手もなく、自校の資料で特色に応じた指導を自由にしていたのである。

すでに受験の害が問題になっていたが、当時の受験勉強は学校の授業と補習と自習で、予備校に行く生徒は少なかった。補習は盛んで全員が希望するほどで減らすのに苦労した。コンピューターも携帯もない時代で、情報や知識は学校から得られるものとされており、学校が信頼され、教育が今より大きな役割を果たしていたのである。

その時代に勉強だけに集中できた竹早高の授業は充実しており、楽しい思い出である。

# 思い出あれこれ...

第二高女・竹早高校時代のクラスメイトとの思い出をお聞きました。あ、これは誰々さん、などと想像しながらお読みいただければ...

## インタビュー



城戸崎 愛さん 高女43回生(昭和18年卒)

### 大切な「人との和・輪・和」



NHK「きょうの料理」の『ラブおばさん』こと城戸崎愛さんは、私たちの大先輩です。若い方も、テレビでお顔はご存じでしょう。お話を伺ってまいりました。  
★まずは、このたびのNHK放送文化賞の受賞、おめでとうございます。同窓生としてとても誇りに思います。

★長年ひとつのことを続けてきたことが評価されたのだと思いますが、これは私ひとりでいただいたものではないと思っています。たくさんの人に支えられ、人の和と輪に励まされてここまで続けることができました。楽しみながら、そのときそのときの自分にあった形で、仕事を続けるということもとても大切ですね。

★お料理の道にお進みになったきっかけは？

★「食」をとても大事にする城戸崎の家に嫁いだことが、大きなきっかけになったと思いますが、それを遡るとやはり第二で学んだことが、土台になっているような気がします。家庭科の実習では、お魚を三枚におろすことまでしましたよ。かなりきちんとした授業だったという記憶があります。それと、

ひとつのことをとことん続ける、というのも第二の校風ですね。第二で学ばなかったら、きっと犬の調教師になっていたのではないかと思います。

★クラスメイトとの思い出もたくさんおありでしょうが、ひとつふたつおしえてください。

★5年間毎年クラス替えがありました。仲良しと別れるのがいやで、気になって、発表前に情報を得るために、印刷屋さんまでおしかけたものです。でも毎年のクラス替えのおかげで、全員と仲良しになれました。

★丸の内の映画会社へ制服のままフィルムを借りに行き、学校で映画会をしました。「制服の処女」など。今考えるとすごい行動力でしたね。

★山に行ったときに、あまりにお天気がよくて、もっと歩きたい、という私たちの熱望に応じてくださった鹿沼先生。「天気のため一日延期」という内容の電報を学校や家に打ってくださいました。天気が悪くて、ではなく良くて、なのですが、この鹿沼先生の機知は私たちにすばらしい思い出を与えてくださいました。

★お元気のひけつを

★キムタクかしら。40歳になったらどんなになっているかと楽しみで、写真を集めて飾ったりしています。コンサートも行きますよ。

★第二のクラスメイトは約半数が健在です。金森トシエさんや山階敬子さんも同期です。すばらしい人ばかり。集まるのがとても楽しみです。

★いつまでもお元気で活躍ください。佐藤 美紗子・記(高校16回生)

るだけでなく、教室に竹早高校の卒業生を配置して、教科的な質問や疑問の解決、大学進学のアドバイザーとして役立つシステムを加えました。そして、平成16年度に「竹早塾」と改名し、現在に至っております。定期考査の直前の土曜日の午前中開催しています。17年度は年10回開催で、延べ1060名の参加がありました。18年度は、1学期の間にすでに4回開催し、470名の参加がありました。今年度の登録STは、約30名で、大学の授業の合間を縫って、テスト範囲の教科書を読み、手作りのプリントや予想問題などを作成・印刷し、積極的に準備して臨んでいます。

### 【今後の課題】

竹早塾の運営は、学校、同窓生、父母と教師の会、この3つがそれぞれの立場や役割をよく理解し、協力し合うことが大切であると考えます。そして、現在のベストな状態を、どうしたらこのままずっと継続していくことができるかが、これからの課題ではないかと思います。学校側の担当の先生は、異動や退職などで、毎年同じではありません。またSTも父母と教師の会の役員も、どんどんメンバーが変わります。メンバーが変わっても、竹早塾に対する考え方や価値観がいつも同じであるように、これからもお互いの立場を尊重し、コミュニケーションを大切に、努力して行きたいと思っています。



資料提供とおはなし  
竹早高校父母と教師の会  
会長/岩瀬千尋さん 顧問/根岸幸子さん

## 竹早塾をご存じですか？

ST(サポート・ティーチャー)は、実は簞会のいちばん若い会員なのです。簞会と竹早高校の架け橋ともいえるこの世代の活躍をもっと知っていただきたく、ここにご紹介します。この竹早塾をはじめとする活動で、竹早高校のPTAが昨年8月に秋田で行われた、第56回全国高等学校PTA連合会全国大会秋田大会で「平成18年度優良PTA文部科学大臣賞」を受賞しました。竹早塾についての発表資料からの抜粋になりますが、どのようなことをやっているか、をぜひみなさまに知っていただきたいと思っています。



竹早塾は、今年で5年目を迎えました。平成14年度に学校週5日制が導入されるのを受け、学校、同窓会、父母と教師の会で、土曜日の過ごし方、活用の仕方などを検討した結果、「土曜自習室」を開設することになったのが、始まりです。この自習室は、ただ単に、自習のために教室を開放す

山内 亨さん 高校14回生(昭和37年卒)

## 「新聞部」の思い出



竹早高校には1959年から1962年まで在学。高校14回生の私たちは終戦から14年目の入学。この時期に高校「新聞部」に所属したことは、貴重な経験となった。1960年6月15日の国会議事堂前でのデモは衝撃的だった。東大生の榊美智子さんが亡くなる「歴史の日」となった。当時竹早高校新聞部のメンバーは挙って参加した。それでも新

安保条約は「批准」、強い挫折感を味わった。力による抵抗の限界。平和・文化・教育を標榜する、今の新聞社に私が進んだ一つのきっかけになった。ともあれ、その後、学校で先生方から「デモ参加」を特別きつく指摘された記憶はない。教頭からの「注意」はあったが新聞部の顧問は黙認。反戦・平和へ、主張を持つことへの理解があったと思う。

浅沼稲次郎暗殺(60年10月)は、「竹早新聞」校了際の印刷所で、テレビニュースで知った。同年代の青年の凶行に心が痛んだ。

そして、60周年記念事業「八ヶ岳寮」(当時)の特集号発行。先輩と2人、「私たちの学生寮」落成の取材に当たった。清里高原の自然に映える「竹早山荘」の魅力を報道した。卒業後30年、「14回生同期会」を開催するようになったところに、諸先輩の努力で、「山荘」がまだ運営されていることを知り感動を覚えた。

同期のメンバー20人で、「竹早山荘」を貸し切りで、懐かしい語らいの時を持った。「山荘」を利用した最初の学年。高校時代の思い出を共有する友との語らいは深夜まで弾んだ。私たちの時代の、心のふるさとであり、いまの在校生にとっても貴重な他校に誇るべき財産であると思う。同期のメンバーである医師が、仕事で悩んでいたときに、「山荘」への滞在で心が癒された、という話も聞いた。紹介する人がいて「山荘」の運営に当たる「竹早会」に関わるようになり、その後、会報委員会など「簞会」のお手伝いをするようになった。

## わけあって匿名希望さん

### 23回生の「ここだけの話」

私たち高校23回生の竹早生活には、二つの衝撃的な節目がありました。そんな中でも私たちは、思いっきり楽しい学園生活を自分たちで作り上げた、という自負があります。忘れられないエピソードをおきかせしましょう。このような内容のため、本名を明かせませんが、どうぞお許しを。

#### 1. 学校紛争

ある日、学校へ行くとバリケードが築かれ教室に入れなくなっている。一部の教員のリベート汚職発覚に端を発した学校紛争が、バリケード封鎖という事態にまで至ったのだ。

#### 【生徒権宣言は私たちが産みの親】

授業は行われず、連日生徒総会が開催され、竹早高校において我々生徒の正当な権利を明文化した「生徒権宣言」を作り上げ、生徒手帳に記載された。(教員の権威は失われ、生徒たちは好き勝手に振舞うようになった。)

## II. 新居間借り生活

背中合わせに同居していた学芸大附属中との分離が行われることになり、新校舎建設のため新宿高校旧校舎に間借り生活をした。その結果私たちは新宿という街にディーブに馴染むことになった。

### 【早朝ボウリング】

世はボウリング全盛時!私たちは高校生らしく効率的に楽しむ工夫をした。普段は遅刻すれすれの登校も、この日は早朝に新宿駅改札口に集合し、早朝割引の歌舞伎町のボウリング場へ。時間ギリギリまで目一杯楽しんだら、遅刻を免れるためダッシュ!早朝の新宿の街を竹早の制服集団が駆け抜けるのだった。

### 【新宿御苑はフリーパス】

新宿御苑と接する扉には、破れて穴が空いている部分があった。ここを通り抜けては休息に(勿論、授業時間中!)、愛を語らうために、愛を語らう人たちを観察するために通ったものだった。

### 【われらがフィールド・オブ・ドリームス】

現在の高層ビル街は、当時、淀橋浄水場跡地を更地にして区画毎にビルの建設を待つばかりに掘り下げられ壁面で囲まれている状態で、まるで恰好の野球スタジアム!“聞く必要がない”と皆の意見が一致した授業時間には、先発の場所取り組と出席調査対応組(代返係ともいう)とに役割分担して野球道に勤しんだ。出席簿上は全員が出席の教室は、実は閑散としていた。(先生、ごめんなさい)

### 【音楽愛好家天国】

学校に在るのは午前中だけ、午後は音楽喫茶やレコード店巡り、こんなことが可能な街だった。校則の『制服で喫茶店に入ることは禁止』なんて項目は有名無実。ビートルズ海賊版を発見して宝物を得たのも、この街にいたからこそだった。

### 【〇〇〇に説教された】

鞆を振り回して歩いていた下校時、鞆がぶつかった(ぶつけた?)家主高校の生徒が「痛じゃねえか!」とインネンをつけてきた。取っ組み合いをしていたところ、通り掛かったやくざさんに「セイガクのくせして往来で喧嘩なんかやってんじゃねえぞっ!」と説教され、学校の敷地内に戻って続をした。止めに入った先生は羽交い絞めにして忠告無用にさせていただいた。

### 【電車の快速運転は私の発案?】

クラブ活動を終えて新宿で山手線に乗り、仲間と大きな声で「この電車は快速だから池袋まで止まらないな。早く帰っていいな」と冗談を言い合っていたら、目の前に座っていたオジサンが立ち上がり「ホントか?教えてくれてありがと」といいながら降りていった。ちょっと気が咎めたが、クラブの練習で疲れていたので有難く座らせていただいた。

### 【ジュークボックス活用術】

遠足での船の中にジュークボックスが設置されていたので、好みの曲をかけるのだが、みるみる100円玉が減っていってしまう。そこで考えた「終わらせなければいいんだ」と。曲が終りに近づくとジュークボックスの側面に思いっきり膝蹴りを入れる。そうすると針が跳んで最初から演奏を始めてくれる。船内に「天使の誘惑」がいつまでも流れていた。こんなことばかりやっていたわけではないんですよ。ほんの出来心のひとコマです。

# 学校の活動報告

竹早高校副校長

八百板 真弓

篁会にはいつも多大なる御支援を賜りましてありがとうございます。おかげさまで、生徒たちは恵まれた環境のもと、学習、学校行事、部活動等に力を発揮し、充実した学校生活を送っています。

平成18年度は、「授業の充実」「生徒の進路希望の実現」「生徒の主体的取組を促す指導の充実」「広報活動の充実」「教育環境の整備」「研究・研修の充実」を重点目標として取り組みました。

授業の充実については、45分7時間授業を堅持し、新たな3学期制を構築すること、「生徒による授業評価」とともに、各教科で授業研究を進め、教科間の連携のもとに生徒の学力向上を図ることに努めました。

また、都教育委員会から進学指導研究協議会(Ⅲグループ)、

IT教育普及支援校、長期休業日等の弾力的運用試行校の指定を受けての取組も成果を上げました。

本校は、入学者選抜については、推薦に基づく選抜、学力検査に基づく選抜、海外帰国生徒対象(4月、9月)を行っています。いずれにおいても御案内のとおり高い応募倍率となっています。

家庭、地域の期待に応えるべく、今後も教職員一同、本校の歴史と伝統を大切に、自主自律の精神の涵養、確かな学力の育成、進路希望の実現に向け励む所存です。篁会の皆様の一層の御支援をお願いいたします。

以下、年間の活動と進路実績を御報告いたします。

## 平成18年度の主な行事

- 4月 6日 始業式 7日 入学式(238名入学) 20日 健康診断
- 5月 1日 生徒総会 2日 校外学習(1学年伊香保グリーン牧場、2学年羽田・横浜、3学年ティズニーランド)
- 17日 体育祭(小石川グラウンド) 26・29～31日 定期考査
- 31日 避難訓練
- 6月 10日 授業公開 22日 学校運営連絡協議会
- 7月 5～7・10日 定期考査
- 19日 大学講座(法政大学経済学部、工学部) 24日 終業式
- 25・26日 水泳部関東大会(千葉)出場
- 7月～8月 夏季休業日 講習 各教科 時間実施
- 合宿 尾瀬(男女バスケットボール、男女硬式テニス、ソフトテニス、バドミントン、剣道、ダンス、吹奏楽、箏曲) 諏訪(陸上競技) 静岡(水泳)
- 河口湖・山中湖(軟式野球、サッカー) 河口湖(男女バレーボール)
- 長野(山岳)
- 8月 18・19日 水泳部インターハイ(大阪)出場
- 9月 1日 始業式、防災講話 14・15日 竹の子祭 16・17日 竹早祭
- 10月 7日 授業公開、学校説明会 20・23～25日 定期考査
- 24日 学校運営連絡協議会 28日 体験入学 学校説明会
- 11月 5日 都立高等学校等合同説明会(立川高校) 7日 開校記念日
- 11日 父母と教師の会夢さがし講演会(講師:恒吉彩子氏)
- 12日 都立高等学校等合同説明会(新宿高校) 25日 学校説明会
- 12月 5～8日 定期考査 8日 大学等説明会 21日 終業式
- 22日～1月7日 冬季休業日 講習 各教科 時間実施
- 1月(平成19年)9日 始業式 20・21日 大学入試センター試験
- 25日 合唱コンクール 27日 入学者選抜(推薦に基づく選抜)

- 2月 10日 保護者のための進路講演会(講師:木村和夫氏)
- 16日 入学者選抜(海外帰国生徒対象) 23日 入学者選抜(学力検査に基づく選抜) 26日 国際理解講演会(講師:伊藤幸男氏)
- 3月 1・2・6・7日 定期考査 3日 卒業式(239名卒業)
- 6日 学校運営連絡協議会 14～17日 2学年修学旅行(沖縄)
- 22日 進路懇談会 23日 修了式
- 父母と教師の会主催の竹早塾(土曜自習室)年間10回(参加生徒数 延べ952名)

進路状況(合格者数一覧・平成18年度卒業生239名) 平成19年3月30日現在

- 国公立大学(11名) 筑波大学(2)、千葉大学(2)、東京外国語大学、埼玉大学、東京医科歯科大学、横浜国立大学、横浜市立大学、茨城大学、岐阜大学
- 私立大学(370) 早稲田大学(12)、慶應義塾大学(7)、上智大学(5)、東京理科大学(12)、明治大学(32)、青山学院大学(16)、立教大学(11)、中央大学(15)、法政大学(17)、津田塾大学(3)、日本女子大学(3)、東京女子大学(2)、学習院大学(9)、明治学院大学(18)、成蹊大学(5)、武蔵大学(3)、成城大学(3)、日本大学(22)、東洋大学(33)、駒澤大学(6)、専修大学(8)、東京電機大学(5)、東京農業大学(16)、東京家政大学(5)、芝浦工業大学(9)、大妻女子大学、昭和女子大学、その他の大学(91)
- 短期大学(11) 青山学院女子短大(4)、東京家政短大(2)、共立女子短大、女子美術短大、その他の短大(3)
- 専門学校(6) デジタルアーツ東京専門学校、早稲田美容専門学校、東京栄養食糧専門学校、文化服装学院、東京ヘアメイク専門学校、その他(1)
- 就職(0)

4月からは新たに、浅田博校長が就任しました。桑木健校長は都立練馬工業高校で活躍されています。

# 在校生の活躍紹介

竹早生のほとんどが積極的に参加し、青春の健在ぶりを示す部活動。中でも華々しい活躍で注目を浴びる二つのクラブを紹介します。

## サッカー部 部長 福山 和希

こんにちは。サッカー部です。現在1年生18人、2年生16人、マネージャー3人の計37人で週に5～6日活動しています。顧問の田代先生、福崎先生の指導の下で日々練習を積み重ねています。平成15年度総合体育大会、平成17年度選手権大会の2度、都大会に出場した功績もあります。グラウンドが狭く、砂ではなく人工芝なので土・日はほとんど他校との練習試合です。正直、引退した3年生の先輩たちよりも技術力が低く、思うように試合をすすめることができない時もあります。そんな時、田代先生はいつも「俺が高校生の時は、毎日ドリブルをしながら学校へ通っていた。上手くなりたかったら考えて練習するしかないんだから。」とおっしゃいます。今の僕たちに必要なのは、できないことをできるようにするまで個々で練習すること、負けず嫌いの気持ちを持つことです。また、サッカー部での経験を将来社会に出て活かせることができれば、これ以上の意味はない

と思っています。だから辛くても苦しくても頑張らなくては行けないのです。部員はみんな個性的で素直な人ばかりです。なので、これからも温かい目で見守って、僕たちの色々な面での成長を期待しててください。やる時はやるのがサッカー部です!!

今年度からGK(ゴールキーパー)コーチとトレーナーに指導していただいています。忙しい中、来ていただいているスタッフの方に感謝しています。



## バドミントン部 部長 鶴沢 有佳

私たちバドミントン部は、先輩・後輩・男女の仲が良い部活です。バドミントン部にはコーチがいないので、キャプテンと部員がひとつになって練習を行っています。4月、5月に行う恒例の40周マラソンや、合宿での辛い練習、夏休みの筋トレなど、とても辛い練習ばかりですが、皆で声を出し、励まし合って毎年乗り越えています。おかげで、肉体的だけでなく、精神的にも成長することができます。

この練習の成果があって平成18年度は…

- ・男子都大会出場
- ・春季大会Aブロック予選 女子ベスト8
- ・新人戦大会男子Aブロック予選 男子ベスト8
- ・Aブロック大会女子準優勝

など、優秀な成績を収めることができました。今年は、男女とも都大会出場を目指して頑張っています。これからも応援よろしくお願いします!!



# 関西簞会だより

島崎 良一 関西簞会副会長 高校18回生(昭和41年卒)

## 関西簞会だより

平成18年度関西簞会・総会は10月29日(日)に簞会の磯貝会長をお迎えしてJR大阪駅前の交通至便なホテルグランビア大阪20階「名庭の間」で開かれました。

磯貝会長には「気配りのデザイン」ものさしからころざしへのご講演を頂き有意義な時を共有しました。講演では戦後の工業デザインから現在の教育問題まで幅広い話題で引き付けられました。特に戦後生まれの私などは子供の頃見慣れた電気製品などのデザインを「見た、見た！」と懐かしく嬉しくなってあっという間に時間が経過してしまいました。

その後懇親会に移り、先輩・後輩の近況報告など恒例となりました。プログラムを経て校歌斉唱、記念撮影と進み名残を惜しみながら閉会となりました。



関西簞会は平成19年初で会員数198名です。最近のご高齢の方々でご出席いただけなくなった方も少なくなく、寂しく思っておりますが、関西以外に在住の方々もおられご遠方のところ毎年何名かの方にご出席いただいています。本会は関西のみでかたまるのではなく、簞会員でご出席をご希望される方は大歓迎です。

平成19年度関西簞会・総会は11月17日(土)に大阪で開催の予定です。詳細は1ヶ月ほど前にお知らせします。

神能 祥世 高校12回生(昭和35年卒)

## 祝百歳 大先輩を偲ぶ

一昨年の関西簞会総会の返信葉書で、高校11回生の平松様より、嬉しい報告を頂きました。「関西簞会名簿トップの永山様(高女24回生)と奈良平城園でのボランティア活動で偶然お会いし、今、百歳を無事迎えられる様、皆さんに励まされながら頑張っておられます」と知らせて頂き、胸が熱くなりました。小柄で凛としたバスケッ

ト部の永山大先輩と、13年程前の総会でお会いした時、昔優勝した事等を誇らしげに、楽しそうに話され、大きなパワーを頂いた事を懐かしく思い出しました。

その後、多くの方々から祝福を受け目出たく百歳を迎えられた事を聞き、私もお祝いの気持ちを抑えきれず、平松様に同行をお願いして再会のチャンスを頂きました。平松様とは初対面でしたが、それを感じさせない親しさで接して頂き、同窓生の縁(えにし)を感じながら、平城園へ伺いました。

温かな介護のもと、明るいベッドで静かに心地良さそうに眠っているお姿は夢の中で得意なハーモニカでも吹いているようでした。鼻すじの通ったスリム顔の懐かしい面影は往時のまま、「百歳おめでとございます。先輩はやっぱスゴイ！」ソツと声をかけてみました。話はできずとも、尊敬の念で見入るそのお顔には、人生の達人としての貫禄さえ感じられ、自信に満ちているようでした。

しかし、残念なことに、その10日後(昨年夏)天寿をまっとうされ、皆様に見守られながら安らかに旅立たれました。明治、大正、昭和、平成と激動の百年間を立派に、精一杯生き抜かれ、関西簞会の大先輩として長い間私達をお導き頂き、感謝の拍手でお送りしたい気持ちで一杯でした。心からご冥福をお祈り致します。

これからも先輩達の築かれた遺産を使い果たすことのない様、自分の力不足を痛感しながらも、簞会の見えない糸を大切にしてください。合掌

# 湘南簞会だより

影本 昌則 高校6回生(昭和29年卒)

## 湘南簞会の近況報告 — 平成18年度の活動 —

5月16日(火)に総会と親睦会を鎌倉市七里ガ浜の「鎌倉プリンスホテル」で行った。本年は人数の関係から会場を何時もの宴会場からレストランの「個室」に変更したが、ここも湘南の海が見渡せる明るい部屋で参加者からも好評であった。

総会では、初め幹事代表として影本が挨拶し、本年も高女出身の方々が多数ご出席下さった事への御礼を述べた。続いての来賓ご挨拶で、磯貝・簞会々長から本部での最近の活動等についてご報告頂いた。そして支部の会計並びに会員異動についての報

告を以って総会は終了した。

本年は親睦会に入る前に松本紀子様(高女41回生)にスピーチをして戴いた。お話は、松本様が昭和15年に皇紀2600年を記念して行われた13日間に亘る朝鮮への修学旅行に関するものであった。あの非常時にこの企画を決断された校長先生並びに諸先生に大層感謝し、同時に今思うと明治生まれの方々には気骨のある方が多かったと思うとの内容で、出席者一同この話に大きく肯きながら聴き入った。



続いての懇親会は、前会長である大塚証子様(高校2回生)の乾杯で始まり、会食後大先輩の高女35回生の薬師寺・橋本ご両名様から、又若手代表として川村様(高校14回生)・田中様(高校17回生)から、それぞれ自己紹介を兼ねた簡単なスピーチをして戴いた。そして最後に全員で高女・高校両校の校歌を歌い、来年の再会を約し散会した。

なお、平成19年度(2007年)の総会と親睦会は下記の通り行います。奮ってご参加下さい。

日時：平成19年5月9日(水) 12:00~14:30  
場所：鎌倉プリンスホテル 会費：7,000円

中馬 早苗 高校10回生(昭和33年卒)

## 裏剣、北方稜線の初冠雪と三段紅葉

3年越しの裏剣、仙人池の紅葉を撮る山行を昨秋やっと実行出来た。扇沢では雨となったが、この悪天候でもどの乗り物もツアー客、観光客でごった返し1時間以上の待ち。やっと室堂に着き歩き出そうと外に出ると、吃驚、積雪30センチ余り、吹雪で視界も利かない。剣沢小屋迄はさすがに仕方なくロッジ立山連峰泊。翌朝は素晴らしい天候、まばゆい光、初めて目にする氷の芸術、素晴らしい光景に感動。初冠雪だが積雪40センチ。まるで雪山登山。紺碧の空に真っ白な剣岳、北方稜線を楽しみ、注意しながら剣沢小屋へ、半日遅れだ。

2日目は仙人池泊の予定がこの雪ではとても無理と真砂沢泊とし、剣沢を剣、八ツ峰、チンネ等の三段紅葉を楽しんだ。

翌日も晴れ、仙人峠迄4時間楽しみながら頑張った。不思議な

事に真砂沢からは雪がなかった。仙人峠にデポして池ノ平小屋、見晴台で楽しみ、急ぎ仙人池ヒュッテに。此処の池に投影する北方稜線と紅葉を撮るのが目的だったのだが…暖かく、霽ってきた。昨秋の「日本山岳写真展」には此処の素晴らしい写真が「山と溪谷賞」を受賞し感動した。



残念な事に4日目は曇、良い写真は無理。名物おぼさんの志鷹さんと記念写真を。この半日の遅れを取り戻せればと4時間で登った仙人峠を2時間半で真砂沢。梯子谷乗越しへ1時間半の急登、その頃からポツポツ、止む気配はなく雨衣を着けひたすら黒四ダムを目指し、4時過ぎ無事到着。何とかその日のうちに帰宅できた。

天気予報は刻々と変わる。念願の秋の裏剣を堪能でき感激と同時に年を感じた山行だった。

田中 道子 高校17回生(昭和40年卒)

## 還暦を迎えて

竹早高校を卒業して42年になる。担任は大谷京子先生だった。爪のお手入れのよい先生だったと記憶している。



私は駒込富士見町に住んでいたの、都電に乗って小石川高校の前を通り、右手にお茶の水大学、左手に茗荷谷の教育大を見ながら通学した。同心町で降りるとまん前が竹早高校だった。試験のことが頭から離れず暗い高校生活だった。

一浪して新潟大学歯学部に入って歯科医になった。結婚して3人の子供に恵まれ、今は3人とも歯科医になり一緒に診療している。

今振り返ってみると、歯科医になって良かったと感じている。15年前にデンタルインプラントに巡り会い、海外に飛び出して勉強することができてから人生が変わった。団塊の世代が定年を迎え入れ歯人生に突入していく時代になるが、インプラントによって「噛む」という人間の原点とも言える機能回復に貢献できている。激しい競争を強いられてきた団塊の世代の多くの人々に質の高い余生を提供できると確信しその達成感が私の喜びだと信じている。

## 竹早エコー

Takehaya Echo

松野 政子 高女34回生(昭和8年卒)

## 原点は第二



大正時代が終わって名残の昭和四年私達34回生は府立第二高女に入学しました。校舎は未だ木造、制服もなく、校章もありませんでした。でも素晴らしい校舎でした。玄関のポーチには近寄れないくらい風格があり二階の講堂に登る広い階段が途中の踊り場で左右に別れ講堂の入口になって装飾の柱があり立派な宮殿のようでした。そこで四大節をはじめいろいろの式や集会がありました。製紙会社の社長藤原銀次郎氏の講演はいまだにその姿が思い出されます。オペラ歌手の関谷敏子さんのソロ、お琴の宮城道雄先生の演奏そして流行歌手の東海林太郎、小唄勝太郎に至るまでの一流を体験させて頂きました。天長節・紀元節等々の式日の中には地久節も入っていました。賀陽の宮殿下御來校の時は廊下をみんなで東子で磨きました。私は七年間居ましたので二二六事件の日も学校でした。朝は大雪で電車が止まり歩いて学校に行ったら友人は半分も欠席、先生方も殆どお見えにならず、私達もお弁当を食べて帰ったのですが、先生が平静にいつものようにしてない、心配はありませんと言って下さるのですが、一体何があったのか訳わからず、家に帰ってから事件を知りました。又当時有名だった美濃部達吉氏(元東京都知事のお父上)の家が学校の裏手にあって友人数名で探検に行ったり、太陽のない街を視に行ってそのひどさに辟易し私は山室軍平に到底なれないとしみじみ思ったことでした。

2006年私は90才、第二のお蔭で外国へ行ってもブローコンの英語で道ぐらいいは教えて貰えるし、地図も少しは読めるし、ヴァレーボールの闘魂で66才から始めた水泳で身体リハビリと楽しみとで外国の大会に出場、昨年はサンフランシスコの郊外スタンフォード大学プールで世界マスターズ水泳大会があり、私は途中沈まず800mを泳ぐ事が出来ました。銀メダルが貰えました。長生きが出来たのも楽しい人生が送れたのも原点は第二だと私は信じています。

2002年の名簿を見れば亡くなられた方甲組四十八人の半数以上。現在私の消息のわかっている方は、春日さん、牧田さん、野口さん、川田さん、皆歳相応に元気でおられます、年年歳歳人同じからず…。私も車を運転してのプール通い。いつまで続けられます事やら…。

山方 百合子 高校5回生(昭和28年卒)

## 竹早と書道と私

私が憧れの竹早高校に入学したのは、未だ敗戦の傷跡が残る昭和25年の春でした。1年の時には美術の小野政吉先生に、2・3年では書道の福原親義先生、そして英語は三年間通して福室茂先生にお世話になりました。

この三人の先生方と不思議なご縁があったのです。私が現在所属している書道会の会長が、三人の先生方をご存知だったとのこと、偶然とはいえ不思議なえにしを感じます。小野先生とは美術を通して、福原先生とは書道会において、又福室先生とは都立町田高校ご奉職時代のお知り合いだったと伺いました。

書道は子供の頃から好きでしたが、本格的に始めてから約半世紀、今ではもう生活の一部、いや半分以上かも知れません。

初めての個展は13年前の還暦で行ない、二回目は銀座の鳩居堂でというのが夢でした。その夢が2004年古稀記念として叶い、実現したことはこの上ない喜びでした。その折には織戸さなへ先生(旧姓小宮山先生)はじめ多くの同期の方々にお越し頂き、感激と同時に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

在学中、特に親しいお友達ではなかった方にもおいで頂きました。「外国へ嫁ぐ娘へのお祝いに」とか、「別荘に飾りたい」と私の作品を選んでくださった事も大変嬉しいことでした。



年4・5回催される展覧会には、前記の小野先生、福室先生はご生前幾度かお越し下さり、織戸先生は現在も度々お越し頂いております。会報16号での織戸先生の記述の中の書道家とは私の事とお聞きし、大変光栄に思っております。

ワープロ、パソコンと手書きする事が少なくなった昨今ですが、日本の貴重な文化である書道を後世に伝えてゆく為の担い手になれればと願いながら、生徒と共に日々励んでおります。70才は過ぎましたが書道会では新参者、まだまだ頑張らねばと思っている今日此頃です。

星野 武 高校14回生(昭和37年卒)

## 写真部ミニOB会の開催報告



一昨年6月の篁会総会の際、懐かしいOBが幾人か顔合わせしたのを機会に、後日、池袋のしゃれた西洋風居酒屋で7名がそろいました。当時の部活動の話題から、写真部13、14、15回生と3代に渡って引き継がれた「篁会会報

発送作業」の苦勞話、はては現在の写真についての論評まで、尽きぬ程の懐かしい時間を過ごせました。7月28日(金)18:00~JOMON-YAにて。

参加者は13回生より濱野・板東・市瀬、14回生より星野・堀内、15回生より泉・白井の各氏です。当日、やむなく欠席連絡も数人ありましたので、今後は10名以上の会に出来ますし、現役員との交流も出来そうだと一同期待しております。

名簿がありませんので旧竹早写真部OBの方は電話かメールでお知らせ下されば幸いです。

竹早14回生連絡所 電話 03-3989-0015(代) FAX 03-5992-0015

星野宛 hoshino@star-hotel.co.jp

木村 民子 高校19回生(昭和42年卒)

## 頼もしい竹早応援団



私は、文京区で生まれ育ち、大学まで全て区内の学校に通い、今も実家に住み続けるという稀有な土地っ子なので、それだけにふるさと文京区に対する愛着は強く「よりよいまちづくり」のために役に立ちたいと思っていた。それに加えて女性の議員を増やそうという活動にも関わっていたので、「だめもと」で第二の人生を賭けてみようと思いついたのだ。

8年前、私が初めて同期会である「一休会」で、無所属・無党派での立候補を表明したとき、皆が拍手し背中を押してくれた感激は忘れられない。奇跡的にも当選を果たし、その後も、竹早同期の有志たちが、物心ともに支援し続けてくれることは、何よりも心強い。担任だった棚橋、織戸、晴山先生に加えて故国広先生からは、励ましの言葉をいただき、織戸、晴山両先生は、催し物にもお顔を見せてくださる。今度の4月の選挙では、一緒に朗読を習っている織戸先生があがりんとした美声でうぐいす嬢？をして下さるとか。本当に素敵な応援団だ。私も皆さんの期待に添えるようがんばらねばと肝に銘じている。

川越 光郎 高校58回生(平成18年卒)

## 竹早という環境

竹早高校を卒業して早一年が経ちました。すっかり『大学生ボケ』というみっともない言葉が馴染んできてしまいました。このまま目標やビジョンもなく大学生活を送っていて、将来自分はどうなるのか、なんてことを考えていると、受験生だった頃をよく思い出します。友達とその頃の話をしてい



ると、私は必ずと言っていいほど毎回言うフレーズがあります。「竹早は環境が良かった」と。中学生の頃から引き続き、高校の初めの方は勉強が大嫌いでした。しかし中学校とは違い、高校は様々な点で似たような人間が自然と集まってきます。その中でも勉強面に関しては、同じ目標を持った仲間がたくさんいました。気づけば毎週の単語テストにしても、模擬試験にしても、友達と競い合うことが楽しくなり、互いに互いを刺激し合い切磋琢磨し、知らず知らずのうちに受験勉強に火がついていました。

ライバル意識を持つ仲間がいることは素晴らしいことだと思います。それぞれの学校にそれぞれの特徴があります。サッカーが強い高校ならサッカーでライバル意識を持つ仲間がいるはずですし、車の専門学校なら車の知識、資格などでライバル意識を持つ仲間がいるはず。その中で、受験に関してライバル意識を持つ環境、そして素晴らしい仲間と巡り会うことができたのは、竹早高校だったからだと私は信じています。

悲しいかな、高校から大学へと環境ががらりと変わると、気持ちの変化も大きいものです。一度ライバル意識を持つ仲間と離れると、自分の進む道に不安になります。高校時代を思い出してしまい、大学生活がつらい時期もありました。しかし最近、竹早高校時代の何人かの友達に刺激され、どうやら新たな目標を見つけることができそうです。

## いいぞ!! 同期会

原 嘉昭 高校17回生(昭和40年卒)

## (1)我らが同期会

私達の同期会は、卒業(昭和40年3月)から20年目に茗溪会館で、初めて開かれました。高校時代は遊び人で有名だった故吉田光之君(ロータリークラブ会員で地域スポーツ少年団を支援した熱き男)が遊び仲間に声をかけ、各クラスから数名づつピックアップし、各クラス名簿を作らせ連絡したそうです。

それまで、クラス会をやっていたクラスは一部だけでした。

我らが昭和37年入学生は、男子100名・女子200名の混合クラス。男女数1:2の上、学力も1:2。結果女性上位の暗黒時代…。ここから女性に頭が上がらない我ら男性仲間の人生が始まりました。頭で駄目ならと、各種スポーツや美術部等のクラブ活動に精を出すことに。

4年に一度オリンピックの年に同期会を開催。同期会幹事(約30名)の仲間が固い絆に結ばれて、毎回百名程度集まります。還暦世代になり、体が心配でそろそろ2年に一度にしなくては、と考えています。

## (2)同窓会『篁会』

昨年、先輩より来年は17回生が同窓会の当番幹事学年と聞かされましたが、同窓会に出たことがない同期会幹事ばかりだったので、同期会は楽しいが、同窓会は魅力を感じていないので、出席していないし、気持ちが乗らない状態でした。ただ、17回生だけが無責任に穴をあける訳にはいかないと結論!

同期会をやるつもりで、気合をいれることに~

同窓会の魅力って??すぐに思い浮かばないけれど、『現役高校生&現学校との接点』そして『母校』という言葉は懐古的な気持ちと暖かさを感じます。

近年、都立高校の廃校があり、身近に北野高校出身の方々がおり、この方々のお話を聞いていると、母校が無くなってしまったことの寂しさをつくづく感じます。

その点、我々竹早高校卒業生は幸せなんです。

だからこそ、同窓会『篁会』を卒業生の皆で、大事に継続させないといけないと思います。

《会報を読まれている皆さん~》

あなた方の学年は同期会を開いていますか?

開いていたら、ぜひ幹事の方を『篁会』理事まで紹介・連絡してください!!(※連絡先後記)

また、同期会を開いていない学年の方々はぜひ開くよう、お互いクラスの友人またはクラブ・サークル活動の時の友人と連絡をとって開くよう努力してみてください。

もちろん、個人個人で高校時代の印象・思い出も違うでしょう~楽しかった思い出、辛かった思い出、時には思い出したくないこともあったかもしれません。

でも、人生はいろいろ、人は変わります。また、自分も変わります。物の見方、価値観も年を経るごとに少しずつ変化しているかもしれません。

皆さん、私達の日常は、汗して、涙して、苦しい日々連続かもしれません~

でも、人生は1度きり、同窓・同期の仲間達から生きる勇気ももらって、日々感謝の気持ちを持ち、笑顔で前向きに人生を楽しもうではありませんか!

## 学年幹事会を秋に開催予定

同窓会『篁会』として、新たに『学年幹事会』を立ち上げます。これは『篁会』会員の交流をより活発にして懇親をより深める』目的で、会員名簿の充実を図り、同期会の開催をサポートし、篁会役員・理事の引継ぎを円滑化し、会の運営基盤の強化(会費徴収の増加)にも寄与。

※【連絡先】古山浩之助名簿担当理事

メール: furuyama@prox.ad.jp

## 告! 会報『篁』に回覧版

この新コーナーは、同窓会『篁会』と会員の皆様との関係をより近いものになるように企画したものです。

◆同期会またはクラブのOB会を開催した場合は、次の項目を投稿ください。①開催日②開催場所③出席人数(男女別)④出席恩師名⑤幹事(男女別)の氏名・卒業年/何回生・連絡先電話番号・メールアドレス【今後1月から12月までの分を翌年の会報誌に、上記項目を掲載する予定です。=投稿締め切りは12月末日】

## 篁情報館

Takamura Information palace

2006年 篁プロジェクト

## 竹早祭に初参加 「憩いのお休み処」ブース開設

今期篁会活動計画の一環である「学校との関連強化」として、春の運動会への優秀チーム表彰に引き続き、「竹早祭」への参画行事を試みました。

行事内容は「校内での休憩室設置」「学校周辺の町歩き」「竹早祭参加の優秀チームの表彰」の3つです。

1番目の休憩室は、4階端の教室の半分を仕切った俄か作りですが、壁面に15回生の在学中の写真集を貼り、TVで高女時代の解説



付きのフィルムが流れる、5テーブルのアットホームな喫茶コーナーとしました。

店内は本格的なドリップコーヒーと茶菓子を用意、理事の皆さんが揃いのエプロンを付け、慣れぬ手つきで精一杯の無料サービ

スを行いました。

16、17日の両日で300余名(感想

メモ記載者数)のご来場を頂き、大層な賑わいでした。

お客様の顔ぶれは概ね、在校生(3割)、受験生と親御さん(4割)と保護者の方(3割)位で残念ながら篁会員は稀でした。

因みに感想文の大半が、卒業生の運営している店であることに驚き、無料で美味しいコーヒーサービスを受けられたことへの感謝で占められました。印象的だったのは、保護者の方で、高女から現在の高校へのフィルムに強い関心を寄せられてか、伝統校にわが子が在学していることへの満足感(?)溢れる旨の感想メモが結構多数有ったことです。

今年の竹早祭は9月15(土)、16(日)日開催  
皆さまのご来場をお待ちしています。詳しくはホームページで。

ホームページ <http://takamurakai.web.infoseek.co.jp/>

ホームページは、会員の皆様に篁会の活動状況をリアルタイムに知っていただくという趣旨で開設しました。

「理事会から」には理事会の議事録を掲載し、今、何を論議して、理事の皆さんが篁会をどのようにしていこうか検討している内容をお知らせしています。

「総会委員会から」では、19年度総会の開催要領や、過去の総会の様子を掲載しています。

「掲示板」には「同期会」欄があり、今年度で開催した14回生の

同期会の模様を見ることが出来ます。また、『コラム』欄では竹早祭(文化祭)の模様の記事を掲載しています。

また、昨年11月には5回生の齋藤康一さんの写真展がキャンギャラリーSで開催されている、と掲載したところ、「ホームページを見て知ったので」と会場に足を運んだ同窓生が何人もいらっやと聞ききました。

今後、さらに充実させていかなければと委員一同考えております。ご意見等をお寄せ頂きたく思います。

## 活用される『篁基金』

篁会館跡地の売却金をもとに設立された「篁基金」。今年度も母校の教育環境の整備に貢献しています。パソコン(美術室、図書室)、100周年コーナー、冷温水器の他、各教室に壁掛け扇風機を設置して喜ばれています。



## 清里高原 竹早山荘から



### 世代を超えた同窓生の交流の拠点 自由空間—竹早山荘

—自然から学ぶ・自然林でリフレッシュ—

クラス会、コンサート、サークル合宿、家族お泊り会など  
楽しい企画でご利用いただけます。

竹早山荘は7000坪余の敷地(自然林・池・湿地・草原)  
に建つセミナーハウスです。

### 竹早会主催2007年の企画 (参加自由)

竹早山荘は…建築家吉村順三氏の設計です

#### ■ 建築セミナー

「吉村順三の世界を語る」

講師：中央設計研究所所長 永橋為成氏

場所：清里高原 竹早山荘

期日：2007年5月26日(土)

午後4:00 開演～8:00

参加費：(1泊2食付)12,000円(学9,000円)

※(山荘の見学、翌日には近隣の名建築の見学会を予定)

※日帰り参加も可能です。

#### ■ この自然環境を大切に!!

##### ボランティア活動

##### ● 山荘の森の手入れ・ハイハイホー

枯れ枝の片づけ・伐採・水路の確保・池周辺の整備・薪割りなどの森の手入れのボランティア。

##### ● 山荘お掃除隊・ルンルンヘルパー

セミナーハウスの環境整備。

参加費：一泊3食付3,500円 保険付

4月から12月まで毎月1回募集します。  
(日程は今年から主に第3の週末の予定。  
変更もありますのでお問い合わせ下さい。  
前後泊して散策も可能です)

この恵まれた自然環境を活用して

#### ■ チャレンジキャンプ

自然体験・生活体験を通じて青少年の自立を促す少人数の少し長いキャンプです。(定員25名)(在校生・同窓生のお子様優先受付・ボランティアスタッフ募集)

##### ● 夏休みキャンプ

A：7月23日(月)～7月26日(木)(3泊4日)

B：7月27日(金)～8月1日(水)(5泊6日)

C：8月6日(月)～8月11日(土)(5泊6日)

##### ● 2008年春休みキャンプ

3月25日(火)～3月30日(日)(5泊6日)

#### ■ 竹早山荘に泊まって

##### 花を訪ねるハイキング

山歩きに詳しい門さんのご案内。

4月から11月まで月1回。金曜夜集合。

季節や行き先によって、土曜日帰り現地解散の月と、山の温泉等にゆつくりする1泊と2泊の山行プランを考えています。

#### ■ 山荘には穴窯と工房があります。

10月に共同窯の窯焚き参加者募集。作陶会もあります。

参加費：10000円+焼成費

#### ■ メンbers募集

山荘の運営はメンバーズ(賛助会員)に支えられています。年会費1口3,000円です。1口以上何口でも結構です。下記振込み先にお振込み下さい。

(財)竹早会 郵便局 00160-5-97121  
みずほ銀行駒込支店 普通0463246

#### お問い合わせ・お申し込み

竹早会事務局 TEL03-3943-2415

FAX03-3941-5872

E-mail takehayakai@forest.ocn.ne.jp

ホームページ <http://www32.ocn.ne.jp/~takehayakai/>

## 平成18年度「篁会総会・懇親会」報告

篁会の18年度総会及び懇親会は、6月11日新宿の京王プラザホテルにおいて227名の人が集まり開催された。

【総会】 甲神岳氏の司会で始まり、磯貝会長からは「新会員も多数出席してくれ、担当幹事の16回生らに感謝したい」と挨拶があった。その後、理事会報告、事業報告、会計報告、監査報告は全て承認された。18年度事業計画案、予算案、新監査選任については承認され、議事は滞りなく進められた。その他「竹早会の運営に協力して欲しい」との質問に対して、会長は「篁会として竹早会の運営には関与致しませんが、会報への掲載、相互の情報交換等お互いに協力できる部分は従来どおり積極的に行っていきたい。」と応えた。

【懇親会】 石川良美さんと古川知子さんが司会を担当した。来賓者を代表して桑木校長の挨拶があり、乾杯の発声は佐藤仁先生(世界史)。懇談の時間となり、会場内では、ビデオで「映像でたどる竹早の百年」が映し出された。出席者で最高年齢者の大橋文さん(97歳)は「ビデオを観て昔を懐かしく思い出しました。毎年篁会に出席することを楽しみにしています」とスピーチすると会場全員から万雷の拍手が寄せられた。その後、新会員の川越光郎氏と餅田香織さん、

清水愛子バレーボール部OG、影本湘南篁会会長と挨拶が続き、辻忠三郎元教諭は「もう90歳に近い年齢になった。50年前の竹早高校のことを書いているこの頃です」とスピーチ。

アトラクションとして、ルーブル合唱団による懐かしの音楽が披露された。「鈴懸の径・岬めぐり・汽笛一声・夏の思い出・浅草物語」などの熱唱は会場内を魅了していた。引き続き、お楽しみ抽選会が行われた。担当幹事の16回生が協賛した景品はかなり多数集まり、進行役の佐藤美紗子さんらが当選した人の名前を次々に呼び上げていくと会場では歓声があがり、当選者は景品を手にして喜びの表情を表わしていた。最後は、府立第二高等女学校と都立竹早高等学校の両校歌を全員で斉唱した。そして次回幹事学年の永長隆徳氏より来年度の総会に関する案内があつてお開きとなった。



### 平成18年度「篁会総会」会計報告

(単位 円)

● 収入		● 支出	
会費(227名)	1,336,000	会場費	1,707,343
祝金	10,000	イベント関連	125,200
篁会から補助	670,909	プログラム印刷代	18,900
		通信費	64,000
		会議費	54,186
		その他	47,280
合計	2,016,909	合計	2,016,909

# 理事会報告

平成18年度は以下の通り理事会活動を行なった。

4月7日 第1回理事会 出席者18名 委任状1名  
 会報発送作業は個人情報管理の徹底と経費圧縮を条件に外注化する事を承認。  
 17年決算、18年予算案を審議し承認。  
 監査として池田明子、萩隆之介氏が推薦され承認。  
 竹早会賛助会費振込用紙同封は見送る事に決定。

5月16日 湘南簗会総会(於鎌倉プリンスホテル)出席(職員会長)

5月17日 竹早高校体育祭参加、優秀チームにトロフィー授与

6月11日 18年総会 出席者227名  
 決算報告、活動報告、予算、活動計画、新任理事・監査とも原案通り承認。

7月19日 第2回理事会 出席者18名 委任状4名  
 9/16・17の竹早祭参加企画を承認。  
 簗会総会の総括と収支報告承認。  
 新会員の総会参加費用に就いて審議し、従来通り簗会負担とする事に決定。  
 遠藤理事副会長職辞任、原嘉昭氏(17回生)理事就任。  
 永長隆徳氏(17回生)理事退任。

9月4日 第3回理事会 出席者21名 委任状0名  
 新理事の選任：内山 光政氏(10回生)古山浩之助氏(16回生)佐藤美紗子(16回生)  
 大森 宣彦氏(18回生)鈴木 輝夫氏(19回生)菅原 哲朗(19回生)  
 木村 民子氏(19回生)

退任理事：犬伏 慶子氏(10回生)池内 和彦氏(16回生)甲申 岳氏(16回生)  
 19年総会運営骨子承認(6月3日プリンスホテル、会費8,000円、講演会実施)  
 理事の担務変更と会費増収策に就いて検討。

9月16、17日 竹早祭参加  
 簗会休憩室“たかむら”開設。(2日間通算303名来訪)  
 “街あるき”イベント実施。  
 竹早高校参加優秀チームへの表彰(楯授与)実施。

10月29日 関西簗会総会(於ホテルグランピア大阪)出席(職員会長)

11月30日 第4回理事会 出席者21名 委任状0名  
 理事担務の変更：名簿委員長：古山理事 HP委員長：中村理事  
 会計：遠藤理事、佐藤理事 会計(財務担当)：小林理事  
 収入増加策審議：(事業形態変更案は継続検討)  
 会費1人1,000円を1口1,000円に変更(来年度の総会承認後)。  
 高女会の開催企画承認。  
 会員名簿管理方法変更(レベルアップ)案の審議承認。  
 新入会員への入会勧誘方法報告。

1月27日 簗会新年懇親会(会費制)実施  
 理事以外に監査、顧問、各委員会委員、学校関係者、PTA会長等簗会活動に関係する有志参加により新年懇親会実施。  
 PTA会長も含め29名参加。

2月17日 第1回合同ソフトボール大会 実施(於 竹早高校運動場)  
 PTA親父の会、竹早高校、簗会の合同ソフトボール大会。

文責 村上

## 簗会平成18年度収支報告

2007/3/31

平成18年4月1日より平成19年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年度繰越金	14,449,629	総会開催関係費	2,016,909
入会金:新会員238人	1,904,000	贈呈記念品費	395,512
年会費	2,443,000	会報発行費	2,256,182
総会会費	1,336,000	会議費	87,112
出版物販売代金	13,000	通信費	3,710
雑収入	24,514	旅費交通費	26,860
諸事業収入	0	事務用品費、消耗品代	0
受取利息	4,586	教育援助金	100,000
		慶弔費	58,846
		HP運営費	6,300
		諸事業経費	90,582
		会費入金払出手数料	243,860
		予備費	0
小計	5,725,100	小計	5,285,873
		次年度繰越金	14,888,856
百周年事業基金	5,540,090	百周年事業基金	5,540,090
合計	25,714,819	合計	25,714,819

期末の現金預貯金等の残高	
現金	0
預貯金	
郵便局通常貯金	1,686,334
郵便局定期貯金	7,000,000
郵便局振替口座	2,192,020
みずほ銀行本郷支店普通預金	9,554,714
会計担当立替金	-4,122
合計	20,428,946

## 簗会平成19年度収支予算(案)

平成19年4月1日より平成20年3月31日まで

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
前年繰越金	14,888,856	総会開催関係費	1,820,000
入会金:新入会員243名	1,944,000	贈呈記念品費	400,000
年会費	2,500,000	会報発行費	2,200,000
総会会費	1,520,000	会議費	200,000
出版物販売代金	10,000	通信費	20,000
雑収入	0	旅費交通費	50,000
諸事業収入	0	事務用品、消耗品費	10,000
受取利息	5,000	教育援助金	100,000
		慶弔費	50,000
		HP運営費	50,000
		諸事業経費	430,000
		会費払出手数料	250,000
		予備費	300,000
小計	20,867,856	小計	5,880,000
		次年度繰越金	14,987,856
百周年事業基金	5,540,090	百周年事業基金	5,540,090
合計	26,407,946	合計	26,407,946

## 簗会役員名簿(平成19年4月現在)

会長	磯貝 惠三(高校7回生)	理事	大高 恵子(高校17回生)
名誉会長	浅田 博(竹早高校校長)	〃	原 嘉昭(高校17回生)
顧問	星野 昌子(高校2回生)	〃	藤島 磁郎(高校17回生)
副会長	村上 伸一(高校14回生)	〃	野川 淑子(高校18回生)
理事	内山 光政(高校10回生)	〃	大森 宣彦(高校18回生)
〃	柏木 洋子(高校12回生)	〃	菅原 哲朗(高校19回生)
〃	遠藤 きみ(高校13回生)	〃	鈴木 輝夫(高校19回生)
〃	板東 高武(高校13回生)	〃	木村 民子(高校19回生)
〃	福島 成二(高校14回生)	〃	吉岡 新(高校21回生)
〃	豊岡 貞之(高校15回生)	〃	小林 稔(高校23回生)
〃	土田 善則(高校15回生)	〃	中村 光宏(高校23回生)
〃	金沢 俊男(高校16回生)	〃	細田 裕美(高校28回生)
〃	古山浩之助(高校16回生)	〃	平川 悟(高校52回生)
〃	佐藤美紗子(高校16回生)	監査	池田 明子(高校11回生)
〃	坂原富美代(高校17回生)	〃	萩 隆之介(高校12回生)

## お知らせ

### ●年会費納入のお願い

全ページカラーで装いも新たになった会報「簗」。これからも同窓生相互の交流、親睦を深めるため、年会費の納入に皆様のご協力をよろしくお願い致します。

同封の郵便振込用紙をご利用ください。

・年会費 1,000円 ・総会参加費 8,000円(参加の方のみ)

・今回の特集で参考とした写真集「たずさえて友と」-写真で綴る「竹早の100年」は多少の余部があります。ご希望の方は年会費振込用紙に「写真集希望」と明記の上、年会費を含め4,300円ご送金ください。

### ●ご意見・ご希望は

会報は同窓生みんなのもので。本誌へのご意見・ご希望を同封のハガキ(総会出欠用)等でお寄せください。また、住所等が変わられた方は下記までお知らせください。

〒112-0002 文京区小石川4-2-1

東京都立竹早高校内「簗会・名簿委員会」

## 編集後記



深く考えることもせず三年間も会報委員会に席をおき、この18号に関しては、代行とはいえ編集会議議長として携わって来ました。

三年間の編集会議を通して、同期の仲間のみならず先輩後輩とのしっかりとしたタテのつながりを持つことができました。

このことは今号での「同窓会」「同期会」への理事会からの呼びかけを、本当に大切なこと必要なこと実感させてくれました。またお忙しい中を取材にご協力くださった方々、原稿をお寄せいただいた方々にも心からお礼申し上げます。ありがとうございました。

発行をむかえ、先輩諸兄姉のお力添え、同期の仲間の結束力に心から感謝申し上げます。(市川加代子)

## 謹んでご冥福をお祈り申し上げます

旧職員	康行	生物		
大島	義文	社会		
濱田				
高女				
大9卒	(20回生)	青柳 綾子	(大槻)	S57
大10卒	(21回生)	神田 富子	(宮川)	H15.3
大13卒	(24回生)	岡田 迪子	(柏原)	H18.9
大13卒	(24回生)	岡崎 やう		H11.8
大13卒	(24回生)	水山 謙子	(平岡)	H18.7
大14卒	(25回生)	佐藤 仁子		H18.3
大15卒	(26回生)	砂川 俊子	(佐藤)	H18.12
昭5卒	(30回生)	伊藤 光子		H17.12
昭6卒	(31回生)	乙 喜多方東江	(喜多方)	H18.8
昭7卒	(32回生)	甲 佐藤 里子	(大矢)	H17.1
昭8卒	(33回生)	甲 市吉 明子	(永持)	H15.10
昭8卒	(33回生)	甲 江澤 淑子	(西村)	H16
昭8卒	(33回生)	甲 岡田 君子	(角尾)	H17.8
昭8卒	(33回生)	甲 刈田ユリ子	(根本)	H18.8
昭8卒	(33回生)	甲 柴田美津枝	(林)	
昭9卒	(34回生)	甲 桑田 藤代		H12.12
昭9卒	(34回生)	甲 四倉 君子	(岩出)	H17.1
昭9卒	(34回生)	乙 磯部 その	(磯部)	H18.9
昭10卒	(35回生)	紅 吉田富士子	(矢坂)	H16.5
昭12卒	(37回生)	紅 八木原住江	(新井)	H16.10
昭12卒	(37回生)	白 田中 寿枝	(田中)	H17.9
昭13卒	(38回生)	紅 柳町蘭子	(倉林)	H17.12
昭14卒	(39回生)	紅 池田蘭美子	(神吉)	H17.6
昭14卒	(39回生)	紅 小金井純子	(小金井)	H14.12
昭14卒	(39回生)	紅 村尾 和子	(宮古)	H17.9
昭14卒	(39回生)	白 大津 雅子	(佐藤)	H17.2
昭14卒	(39回生)	白 草刈満佐子	(仙波)	H18.2
昭14卒	(39回生)	白 藤 須賀子	(万木)	H18.4
昭15卒	(40回生)	白 佐治 久美	(丹野)	H14.8
昭15卒	(40回生)	白 谷口 博子		H16.10
昭15卒	(40回生)	白 真山 美保		H18.5
昭16卒	(41回生)	服部 禮子	(栗林)	
昭16卒	(41回生)	藤川千代子	(山橋)	H17.6
昭17卒	(42回生)	峰 和子		
昭18卒	(43回生)	秋山 路子	(鶴中)	H17.12
昭20卒	(45回生)	杉浦安藝子	(三村)	H17.6
昭20卒	(45回生)	丸山ミヨシ	(徳山)	H17.9
昭20卒	(46回生)	岡野ひろ子	(伊藤)	H15.8
昭23卒	(48回生)	小西 順子	(山田)	
昭23卒	(48回生)	茂田 輝子	(江水)	
昭23卒	(48回生)	田中ヒロ子	(江間)	
昭23卒	(48回生)	中野 澤子	(前田)	H18.2
高校				
昭25卒	(2回生)	小野 智子	(中西)	H17.12
昭27卒	(4回生)	青柳美津子	(木島)	
昭27卒	(4回生)	潮田奈々枝	(林)	H18.1
昭27卒	(4回生)	小林 静	(土川)	
昭27卒	(4回生)	今野 愛子	(戸田)	
昭27卒	(4回生)	坂野 ミヨ	(鈴木)	
昭27卒	(4回生)	原田 良子	(丸山)	
昭27卒	(4回生)	細田 和子	(重田)	H18.4
昭28卒	(5回生)	C 斎藤 泰子	(岡田)	H18.4
昭28卒	(5回生)	C 高波 知子	(荒川)	H17.5
昭30卒	(7回生)	A 長久保福子	(深野)	H18.1
昭32卒	(9回生)	C 石橋 研史		
昭32卒	(9回生)	E 西田 省二		H16
昭35卒	(12回生)	E 高松 宣夫		H17.1
昭36卒	(13回生)	E 山藤 勝彦		H18.11
昭37卒	(14回生)	E 稲垣 洋		H18.6
昭37卒	(14回生)	E 加藤恵美子	(戸塚)	H18
昭37卒	(14回生)	E 武井 博美		H18
昭38卒	(15回生)	E 久保田 毅		H19.1
昭38卒	(15回生)	F 森山 和男		H17.5
昭41卒	(18回生)	A 中澤 岳路		
昭41卒	(18回生)	F ZANG美千代	(森住)	H12
昭43卒	(20回生)	C 石野 仁子		
昭43卒	(20回生)	D 大野 光代	(土岐)	H12.6
昭45卒	(22回生)	C 田中 幸絵	(御法川)	H18.4
平11卒	(51回生)	E 小林 藍		H14.9
平13卒	(53回生)	C 佐藤 大地		H17.9

\*平成19年2月28日までにご連絡いただいたものです。